



大和物語 下

特 別  
~ 12  
5097  
2





























































此のころはさかしく男もせがサ九一人もいふも  
 よもいかにわが一世乃あつたこと。此のころは  
 あり。いかにのころをいふもさかしくいふも  
 犯のちのそとげ多いこと。さかしくいふも  
 あつた。乃女侍一人。さかしくいふも  
 つもいふもさかしくいふも。乃あつた。乃  
 教をさかしくいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 と。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 つもいふもさかしくいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも

四十四

人あんなあつた。乃山蔭中納言。乃あつた。乃  
 條乃。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃  
 の伊勢のころ。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃  
 いかにのころ。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも

平城帝御孫所保親王男。元慶元年正月十五日左近  
 母伊豆内親王桓武皇女。山蔭從三位中納言。  
 中將。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも  
 あり。いかにのころをいふも。さかしくいふも

山蔭從三位中納言。魚名。末藤高房男。庖丁上手。  
 吉田社建立。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃あつた。乃























せまよはせぬあはれもさるけ  
 後しうくしめしあげあふうと  
 とくまよま<sup>句</sup>さうひと子歌を  
 けり。あぢあまのうらみ  
 うしあまのうらみと  
 つふまうらとんうま  
 せんとおぢあはれ  
 多飼院はのま。大に玉例  
 後撰乃作考くおぢあ  
 物波のまよとくまよ  
 いたちがまよと事

兼徳此とまよ玉例のまよ  
 ちくまよの勅多し。まよ  
 くれど乃事を作せ  
 けいしうまよと  
 あまのまよりあひあ  
 けしあまのまよと  
 まよのまよりあひあ  
 あまのまよりあひあ  
 くのまよと大鐘まよ  
 へあまのまよりあひあ  
 よまよりあひあまよ







つるらんすぶてつれよわびまきあまらむやうと  
 作られらまきぶつりあんとつひのり  
 かくて之り 系へ還侍。南院七郎キ。勳云  
 是忠親王之子。六男七男近代系圖不見。案  
 紹運録。是忠親王之御子。式順王。式騰王。真雅王。  
 忠望王。今扶王。英我王。源清平。源正明。源和ら。の  
 けうらうや。七郎ぎこぐり。七郎のともく。  
 左の二條。わあれ法ある事。をかせたや。  
 ひ。はれます。むあまらり。る事。をよぶ  
 お。さ。り。あ。ん。ま。ら。る。ひ。ら。り。は。あ。ま。す。む  
 男。姓。ハ。し。ら。る。あ。り。ら。る。ま。ま。ひ。ら。り。ら。る。

四九二

これ必乃人。うんま。く。姓ハ。あ。ぬ。あ。ん。ひ。ら。る。  
 げ。後。萬葉集第九云。過葦屋。處女墓。時作歌一首并。  
 短歌。古乃。益荒下子乃。あひ。競ひ。妻とい。ま。え。  
 あ。の。や。の。菟名。日。處女。奥城を。わ。ら。る。ま。ま。は。  
 永き。世。れ。語。り。ま。つ。て。後。の。人。あ。び。ま。え。と。  
 玉。を。り。る。の。あ。り。い。え。ま。え。つ。ね。る。つ。つ。を。  
 あ。ま。ま。の。ま。ま。の。眼。を。け。ら。る。は。る。人。ま。ま。よ。  
 行。ら。り。わ。ら。る。款。日。わ。び。へ。は。ね。も。ま。ま。つ。  
 け。ら。り。ま。ま。の。あ。び。つ。ぎ。る。ま。ま。が。奥。城。ご。ら。る。  
 わ。ら。り。ま。ま。の。あ。ら。る。む。し。り。あ。ん。だ。

反歌



























蓬葉<sup>ハク</sup>字<sup>ハク</sup>りつりし心をうけけ。女のうや  
 敷を志<sup>ハク</sup>ふまをなよまをま<sup>ハク</sup>るよや。あふ命<sup>ハク</sup>生  
 田川<sup>ハク</sup>よりこのよをわ<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>よ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>  
 と<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ど<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>ん<sup>ハク</sup>ど<sup>ハク</sup>や<sup>ハク</sup>女  
 官<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>た<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>ち<sup>ハク</sup>や<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ひ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>も<sup>ハク</sup>竹  
 子<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>こ<sup>ハク</sup>だ<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>子<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>は  
 女<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>少<sup>ハク</sup>将<sup>ハク</sup>井<sup>ハク</sup>尼<sup>ハク</sup>伊<sup>ハク</sup>勢<sup>ハク</sup>太<sup>ハク</sup>輔<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ど<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>が<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>後  
 つ<sup>ハク</sup>る<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>女<sup>ハク</sup>ご<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>ゆ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>や<sup>ハク</sup>通<sup>ハク</sup>後<sup>ハク</sup>の  
 乃<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>格<sup>ハク</sup>建<sup>ハク</sup>集<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>し<sup>ハク</sup>こ<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>又  
 け<sup>ハク</sup>う<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>彼<sup>ハク</sup>少<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>こ<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>よ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>  
 う<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>た<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>る<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>

長束乃命母

そも七条后乃友女あはし

はのれまもを<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>も<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>ち<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>

あやと<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>え<sup>ハク</sup>お<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>の<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>

つ<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>も<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>す<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>こ<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>那<sup>ハク</sup>ゆ<sup>ハク</sup>あ<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>

は<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>つ<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>も<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>く<sup>ハク</sup>塚<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>う<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>は<sup>ハク</sup>

ま<sup>ハク</sup>り<sup>ハク</sup>も<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>い<sup>ハク</sup>れ<sup>ハク</sup>お<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>を<sup>ハク</sup>か<sup>ハク</sup>す<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>ま<sup>ハク</sup>

い<sup>ハク</sup>と<sup>ハク</sup>こ<sup>ハク</sup>ら<sup>ハク</sup>乃<sup>ハク</sup>別<sup>ハク</sup>苗

勤<sup>ハク</sup>云<sup>ハク</sup>典<sup>ハク</sup>侍<sup>ハク</sup>春<sup>ハク</sup>澄<sup>ハク</sup>朝<sup>ハク</sup>臣<sup>ハク</sup>治<sup>ハク</sup>子<sup>ハク</sup>古<sup>ハク</sup>今<sup>ハク</sup>作<sup>ハク</sup>者<sup>ハク</sup>寛<sup>ハク</sup>平<sup>ハク</sup>遺<sup>ハク</sup>誠<sup>ハク</sup>云<sup>ハク</sup>日  
 給<sup>ハク</sup>之<sup>ハク</sup>物<sup>ハク</sup>等<sup>ハク</sup>類<sup>ハク</sup>總<sup>ハク</sup>可<sup>ハク</sup>處<sup>ハク</sup>分<sup>ハク</sup>治<sup>ハク</sup>子<sup>ハク</sup>朝<sup>ハク</sup>臣<sup>ハク</sup>自<sup>ハク</sup>昔<sup>ハク</sup>知<sup>ハク</sup>余<sup>ハク</sup>所<sup>ハク</sup>之<sup>ハク</sup>事<sup>ハク</sup>下  
 生<sup>ハク</sup>之<sup>ハク</sup>間<sup>ハク</sup>猶<sup>ハク</sup>令<sup>ハク</sup>兼<sup>ハク</sup>知<sup>ハク</sup>之<sup>ハク</sup>云<sup>ハク</sup>る<sup>ハク</sup>參<sup>ハク</sup>議<sup>ハク</sup>式<sup>ハク</sup>部<sup>ハク</sup>太<sup>ハク</sup>輔<sup>ハク</sup>善<sup>ハク</sup>經<sup>ハク</sup>女<sup>ハク</sup>



拾枝抄云系所在采女町北之目継殿之別所也四ノ三十一

○ かしらもげもあててやとらん君よりより

おもひくくぬりやまをこころねとも

下の句はくくくくくををををををををををを

の男はくくくくくくくくくくくくくくくくくく

よきなり。くくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○ あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

二人の男はくくくくくくくくくくくくくくくくく

又ひと

○ 身をちびてあをんとくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○ 又くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○ 又くくくくく

○ うりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



























とてかへしてしるべきありてはなほれはあまのつねは  
とらりの人<sup>時</sup>もつたふしはてあつてしりたれはいふ  
くもさしきすまふまふとてあつてしりたれはいふ  
わがもつたふしはてあつてしりたれはいふ  
えあつてしりたれはいふ  
あつてしりたれはいふ

とてかへしてしるべきありてはなほれはあまのつねは  
とらりの人<sup>時</sup>もつたふしはてあつてしりたれはいふ  
くもさしきすまふまふとてあつてしりたれはいふ  
わがもつたふしはてあつてしりたれはいふ  
えあつてしりたれはいふ  
あつてしりたれはいふ

とてかへしてしるべきありてはなほれはあまのつねは  
とらりの人<sup>時</sup>もつたふしはてあつてしりたれはいふ  
くもさしきすまふまふとてあつてしりたれはいふ  
わがもつたふしはてあつてしりたれはいふ  
えあつてしりたれはいふ  
あつてしりたれはいふ























































けりひきき。西代風土記あり。とて證文あきしむ。し。  
 ちのあれと。宗祇説す。京極萬門乃所宗焉。とのひ。  
 尚依不用と。又云。あつ七代ハ。元明帝ハ。銅三年  
 小。難波より和州乃都小。つりま。より。光仁帝  
 十。七代也。元明元正聖武孝謙  
 廢帝稱德光仁以上當流小。あつれ。のひと  
 文武帝と。用侍り。之の帝。前一代をれん。あつり  
 へ。乃。は。お。し。事。ま。は。は。は。は。又。後。常。恩。寺。殿  
 此。説。り。始。文武帝。開。祭。良。宮。而。歸。藤。原。地。而。重。元。明  
 帝。用。祭。良。宮。と。もの。ま。り。恩。按。諸。説。の。帝。は。は  
 祖。ハ。海。号。あ。つ。は。は。ハ。文武帝。と。故。ハ。有。九。也。袋  
 双。紙。人。九。勘。文。云。如。萬。葉。人。磨。歌。始。於。藤。原。御。宇。云。又。敦

光郷、人磨賛亦云。仕持統文武之聖朝。遇新田高市之  
 皇子云。又或説下。人九々神龜元年三月より也。は  
 たり。聖武帝ハ。同二月ハ即位せられん。ハ朝小仕  
 たり。御。つ。つ。程。あ。つ。す。は。は。は。は。文武帝と。ハ  
 事。理。あ。つ。つ。は。は。又。は。は。は。は。新。田。川。の。お。お。こ  
 くれ。の。は。は。は。は。を。古。今。小。あ。つ。は。帝。の。所  
 ち。と。し。と。は。は。は。は。京。極。萬。門。乃。文武天皇と  
 事。付。多。り。と。は。は。は。は。は。帝。と。つ。り。ハ。小。説  
 ち。き。も。也。但。又。或。人。ハ。今。集。の。ハ。註。を。貞。應  
 本。ハ。文武と。阿。佛。乃。の。ま。ま。り。嘉。祿。本。小  
 と。ち。と。為。る。の。後。と。も。也。ま。り。お。つ。あ。つ。











































































































のき所よりうらうらとまらるるおとこ云旨法印  
乃談り。嘉祥三年閑院左大臣冬嗣公氏神春見  
勸請志よりとる。げほのる。江次身 大江匡房撰  
五条右順子まらるる。高子以姪乗車後云。  
或説云。明子大原野乃り移る。貞觀三年二月廿五  
日也。乃り同二十九日入道まらる。皇太子 貞明親  
也。貞觀十年より生れさせまらる。乃り此の時  
まらるる子を東宮の女侍とす。乃り此の時  
いせおほく東宮まらる。東宮此のやまらる。乃り  
これの世より近き説り傳り。江次身此の時  
まらる。乃り此の時。愚案まらる。

伊勢物語 廿四  
昔二条ノ后ノ  
イダ春宮ノミヤ  
スニホト申ケル  
時氏神ニニフテ  
カサニサフテヒケ  
ルオキナノノロ  
クニハルツ井テ  
ニ車ヨリタニ  
ハリテヨミテ奉  
ケル

今此の世よりうらうらとまらるるおとこ云旨法印  
乃談り。嘉祥三年閑院左大臣冬嗣公氏神春見  
勸請志よりとる。げほのる。江次身 大江匡房撰  
五条右順子まらるる。高子以姪乗車後云。  
或説云。明子大原野乃り移る。貞觀三年二月廿五  
日也。乃り同二十九日入道まらる。皇太子 貞明親  
也。貞觀十年より生れさせまらる。乃り此の時  
まらるる子を東宮の女侍とす。乃り此の時  
いせおほく東宮まらる。東宮此のやまらる。乃り  
これの世より近き説り傳り。江次身此の時  
まらる。乃り此の時。愚案まらる。

古十七難上 二条后ノミヤ東宮ノミヤニホト申ケル時大原野ニ詣テ山日ヨルニ業平朝臣  
大なるやまらる。乃り此の時。愚案まらる。  
神代のころまらる。乃り此の時。愚案まらる。  
云旨法印云。東宮のころやまらる。乃り此の時。愚案まらる。  
天照太神と春月明神と整りまらる。乃り此の時。愚案まらる。  
殿乃り此の時。愚案まらる。







こひのびとてまづもや。おゆすまをのち  
とてまづとてごまじ。一草二名のゆへに  
とちんあるらるるまじ。まをまのぶらさわ  
らまをのぶらまよらてまよまをのぶら

い草れ事。社中おらて。けぬく同答傳  
けぬきまをのぶらまのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

續古今從臣頭  
豆

在中将よりきさいのまをのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

い詞伊勢物語よりとてまをのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

在原業平朝臣

古五秋下  
人ノセニサイニキクニムスヒツケテウヘケルニ  
ウヘシウヘケルニ

い又文字真名伊勢物語 六条宮御作  
い又文字真名伊勢物語 六条宮御作

いとゆり。業平家集より。まをのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

異本より。まをのぶらまのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

うへしうへと何をも定家マもうつらんと  
うへしうへと何をも定家マもうつらんと

いんより。うへしうへと何をも定家マも  
いんより。うへしうへと何をも定家マも

まをのぶらまのぶらまのぶら  
まをのぶらまのぶらまのぶら

花をうへまをのぶらまのぶら  
花をうへまをのぶらまのぶら

らまをのぶらまのぶらまのぶら  
らまをのぶらまのぶらまのぶら

ともおののまをのぶらまのぶら  
ともおののまをのぶらまのぶら

ともおののまをのぶらまのぶら  
ともおののまをのぶらまのぶら

伊勢物語 五十四段  
ムカシオトコ  
人ノセニサイニ  
キクニムスヒツケ  
テウヘケルニ  
ウヘシウヘケルニ  
業平集  
うへしうへ































くもわぶおほまじい〜ふらんあゝ〜

良少将の音せはりくる事をつて

かくてせもあらあつてつづまうつ。このどど  
ぎもあくおがされてあるが。このどど  
あつてつづまうつ。このどど  
あつてつづまうつ。このどど

けらがねうせにたり 宗貞者世せしはぬ。勘

嘉祥三年三月廿一日仁明帝崩于清凉殿 廿四日

葬於山城深草山陵御葬司為葬束今夜宗貞出

家 三十五。元亨釋書云。登睿山雜髮於慈覺

室。學子直台密云云。法名遍昭。

ともごち。あつてつづまうつ。このどど

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。

あやちりにらん。あやちりにらん。あやちりにらん。







































新不長好守らるるあま玉はけりりの小所どのこまあ  
 同人とまきめきこゆるとて業平のあせんやう  
 ちまうりゆきそへに髑髏乃よめる下れ句を小  
 野とハのそしすきおひたりとつあまする  
 を日本紀の式ともやまきとてしちるし傳しを  
 江次才乃り詠り似たり又み玉告つてよま  
 ハ壯時<sup>サカキ</sup>情慢最甚<sup>モト</sup>。衰日<sup>ウツ</sup>愁難猶深<sup>トク</sup>とて。さく河を  
 くるあまはゆし。まきとてく在中將のあそ  
 ぬるよまきとて後をくりまひしぬまのふれる老  
 のほうやふらん徳をしも又及多りともらん事。彼  
 中將の陸奥へは流しぬより。ち龍<sup>リウ</sup>の禮をさゆ

おあつのちりぬりハあるとはまきハ玉造小  
 ころもこも人ちまき。又は江次才乃り求小野小  
 町戸とのまきも。信義多くハあまきとて  
 清あり。源起在元亨釋書。まきあう。讀經し種を  
 よしゆし。扱双歌小。まきあう。父善。陸羅尼ハ曉とて  
 つまきまきやうにけり。はる想ていをするさあ  
 ひうちあ大赤のまきあや。いふりよとて  
 うは少將のあうぬ。河とまきあう。心とて  
 けり。のう<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>編<sup>ニ</sup>集<sup>ニ</sup>小<sup>ニ</sup>町<sup>ニ</sup>より乃り消息ハ初  
 けり。のう<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>編<sup>ニ</sup>集<sup>ニ</sup>小<sup>ニ</sup>町<sup>ニ</sup>より乃り消息ハ初  
 けり。のう<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>編<sup>ニ</sup>集<sup>ニ</sup>小<sup>ニ</sup>町<sup>ニ</sup>より乃り消息ハ初







俗俗のいふまじりたる時の子どももくまのた師に  
近近乃乃將監將監より殿上殿上やありある。かくよに  
いふまじりやまじりときまじりとして母もなま  
くれどいきてりなれど法師の子ハ初初しなる  
づよりまじり。これも初初しりありてなり。

太郎太郎も近將監近將監。玄利玄利。或或僖時僖時。清和御時清和御時、  
殿上人殿上人。法名素性法名素性。のいふまじりいふまじりときま

じりありてまじり。法師法師のまじりありてまじり  
といふ聖徳太子聖徳太子乃乃我子孫我子孫為為令令無無日本日本之相續之相續

とのいふまじり。のいふまじり。釋尊釋尊乃乃之之羅睺羅羅睺羅を  
かれしありてあり。

後後ニ春下春下ヤヨヒニカカリノ花ノサカリニ道ニカケルニ  
わらうまじり。あづきりありてあり。僧正僧正遍昭遍昭

いふまじり。けり。ありてあり。のいふまじり。のいふまじり。  
心心。いふまじり。三世諸佛三世諸佛あり。及及撰撰入入後後。  
とくも信信の信信。ありてあり。ありてあり。ありてあり。  
ありてあり。ありてあり。ありてあり。ありてあり。  
ありてあり。ありてあり。ありてあり。ありてあり。  
ありてあり。ありてあり。ありてあり。ありてあり。  
ありてあり。ありてあり。ありてあり。ありてあり。











いとおうぢありなれどめをとおめくぞれこころの  
しこもつひなれど。これ母よりきこり。ちかこころ  
にいとたうぢ成あれどゆめこころおとこちかきま  
あまううあひひも。たあまきまありおりんおふよひ  
こえんとつひて。これなこころまきまこころおびを  
ときたりとも色たり。ちかこころまきまこころおびを  
きこりてこころきこる。まきまこころおびをゆひてこころ  
ていぬ。こころこころ六せびりふありたり。このかこ  
つらこのこありきこるなれどこころまきまこころお  
あまこころなれどおのひきこりたり。おとこころこころ  
うまねよたり

おぢ。大神。大三輪神也。大物主乃うまきまの  
あり。三輪とす。本跡なれもちかこころまきまこころ不  
及。註。こころこころのひ。幣使。まきまこころ使乃  
ことこ。公事根源。こころまきまこころお月上のおの目  
ふきこころまきまこころお月上のおの目  
あまこころまきまこころお月上のおの目  
おのひきこりたり。まきまこころお月上のおの目  
こころ。山城乃井平こころおのひきこりたり。まきまこころ  
おのひきこりたり。まきまこころお月上のおの目  
まきまこころお月上のおの目



久しぬがれちて年ゆきめづりあはれしむらさ  
玉川のまのなごれぬぐりト帯引ひよびわ  
すれとつしとりのまれ露ちどゆり。めをど  
どめてこそとあちわてこ。ちちくし事いこ  
あり。六条家の本みん。るをとどめてぞれあこ  
まろこちぬぐりこありゆえんこ男一のま  
肉合人のめごうれ。あまうら子酒。みよ川  
ゆひす肉合人わが帯。みをつけて。れあま  
もてをてこ。六セづりおきたり。むらあゆん  
りよよ。こで。あまをいへ。六セぞらり。あ  
ありんたとあり。

あつて七八のづりあま。よをまのづひはれ  
やま。くつとえ。がののま。りよ。やどりてぬ  
えれ。まよ。あま。あり。なる。ま。つ。う。あ。ま。ん  
あま。あま。あま。  
い。ほ。乃。と。ま。り。例。乃。年。は。よ。や。こ。で。う。福。園。所  
は。諸。本。の。く。の。う。と。う。ま。ま。い。あ。ま。ん。を。  
い。ど。め。り。り。乃。ら。を。あ。ま。を。つ。ま。つ。あ。ま。は。ま。  
と。ま。い。ふ。あ。ま。る。本。う。云。こ。ま。ま。う。あ。ま。ん。女。ど  
も。あ。ま。る。が。り。あ。ま。ら。る。れ。ゆ。あ。ま。と。ま。ま。ぬ。と。  
こ。ま。い。と。あ。ま。の。ひ。て。す。あ。ま。の。ひ。あ。ま。と。ま。  
これ。ひ。く。乃。さ。い。や。中。あ。ま。あ。ま。ま。ま。ま。







くる詩云開心暖胃門冬飲知是東坡手身煎  
キヲカ ヒ カ ヒ  
 東井命婦。やの友女や。又はきこの生田川の  
 悠くまると同くちよと。さうりこと。さうま  
 の。東井命婦。謝。さうりこと。さうりこと。  
 ちをやぎらうあまのねはも喜の  
 ちあまのし。わらあまのりあり  
 ちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 とあまのし。東井命婦。さうりこと。さうりこと。  
 のちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 のちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。

あまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 難。あまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 ちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 ちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 武部。あまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 ちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 のちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 女。あまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 今のちあまのし。あまのりあり。あまのりあり。  
 右少將。廿一年。從五位上。藏人。延長四年。正五位下。  
 六年。四位左中將。八年。藏人頭。承平元年。參議。止中



























































宇多法皇

寬平九年丁巳七月讓位。御于朱雀院。昌泰元年戊午十月廿日競狩御幸。翌日幸吉野宮。瀧。二年十月十四日於仁和寺御出家。三法名金剛覺。以權大僧都益信爲戒師。十五日於東大寺灌頂。十一月廿一日御東大寺。廿四日甲寅受戒同寺。同月依固辭。停太上天皇号。同三年庚申十月御幸南山。延喜五年乙丑八月七日癸亥御幸金剛寺。六年丙寅十一月十七日公家幸朱雀院。賀法皇四十筭。加爵院司。七年丁卯十月二日丙午御幸熊野。十五年乙亥公家

幸亭子院。加爵院司。十六年丙子三月八日幸朱雀院。賀五十筭。年娶故左大臣時平公女廢子。廿年庚辰月日廢子生雅明親王。延長二年甲申正月廿五日法皇奉賀。今上四十筭。賜饗於百官。三年乙酉廢子生行明親王。四年丙戌法皇幸大井川。十二月十九日京極御息所賀法皇六十筭。有行幸。承平元年七月十九日崩。六十八月五日火葬大內山陵。



本與書云

寬喜三年八月十四日<sup>ハ</sup>辛未未時於北邊蓬屋終書  
寫之功閑居徒然之餘也目盲手振不成字推量而  
洙筆計也即校畢當初書寫物以無落字為一得毫  
及之後已落數行書入之可恥可悲

或本與書云

此一帖以京極黃門自筆之本不違一字詭人令書  
之但落字等繁多追而猶可加勘校者也

永享三年十月日

權少僧都在判

又或本與書云

延德二年六月十一日以禁裏御本令書寫頗可  
為證本者款則校合畢

まじあるちんりよれつひ乃あのを  
ことろまらりろのりあをさあぞ  
うにちつちあさとさろちぞもあれぞ  
つるあんをえゆるぬぞあささあかん  
よもちあしちとびにすんぐさき事ども  
るれぞとらりひざりるあさつねゆる

いあんとしりあさりあさひとあれあをよび  
たりあささあさりよあひらるあささ  
ちりあさあさあさあさあさあさあさ



























たろは八  
三



めらめれまゝのいぢり  
あめばりにやうり  
つきはるんうら  
えはれだちうしては  
けをきりぬ

壬辰十月中旬

拾穂

後光明天皇 徳川家綱 二二二二 二七五年前

兼康二愛正仲友吉日

中野小左衛門板刊

右十六首 并連字一結 本異本ノ十三首 惣ノ歌合三百五首 連字以外也

三十七首 四百五





